

聖霊を欺く

新シリーズ
～福音となったイエス～

2026・2・22

聖霊によって成長する教会

• 五旬祭の日の奇跡

- エルサレムに留まった120人ほどが**聖霊**が語らせるままに「ほかの国々の言葉で」話し出す
- 集まった人たちにペトロらが最初の証言をし、その日に「**三千人ほど**が仲間に加」った

• 「美しい門」での奇跡

- ペトロとヨハネが「生まれながら足の不自由な男」を「イエス・キリストの名」によって癒す
- 集まってきた人たちに証言、**男だけで五千人ほど**に
- 捕らえられ、翌日議会で「**聖霊**に満たされて」証言

使徒言行録4章32～37節

信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、皆、人々から非常に好意を持たれていた。信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。土地や家を持っている人が皆、それを売っては代金を持ち寄り、使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じて、おのおのに分配されたからである。たとえば、レビ族の人で、使徒たちからバルナバー「慰めの子」という意味—と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。

支え合う教会

- 経済的に支え合う教会

- 「一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた」

- 土地や家までも売って分け合う

- 「その金は必要に応じて、おのおのに分配された…信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。」

- キプロス島生まれのヨセフ(バルナバ)も

- 「周囲の人たちから好意を持たれる」

- 「使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし…」

使徒言行録5章1～11節

ところが、アナニアという男は、妻のサフィラと相談して土地を売り、妻も承知のうえで、代金をごまかし、その一部を持って来て使徒たちの足もとに置いた。すると、ペトロは言った。「アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金をごまかしたのか。売らないでおけば、あなたのもものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったのではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」この言葉を聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。そのことを耳にした人々は皆、非常に恐れた。若者たちが立ち上がって死体を包み、運び出して葬った。

それから三時間ほどたって、アナニアの妻がこの出来事を知らずに入って来た。ペトロは彼女に話しかけた。「あなたたちは、あの土地をこれこれの値段で売ったのか。言いなさい。」彼女は、「はい、その値段です」と言った。ペトロは言った。「二人で示し合わせて、主の霊を試すとは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、もう入り口まで来ている。今度はあなたを担ぎ出すだろう。」すると、彼女はたちまちペトロの足もとに倒れ、息が絶えた。青年たちは入って来て、彼女の死んでいるのを見ると、運び出し、夫のそばに葬った。教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れた。

聖霊を欺いたアナニア

- 土地を売ったアナニアとサフィラ
- 夫婦で相談の上代金をごまかして持ってきた
 - 代金の一部なのに全部だと言ってささげた
- そのことに気づいてアナニアを責めたペトロ
 - なぜペトロはアナニアたちの嘘に気づいたのか？
- 聖霊を欺いたアナニア
 - 「なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、**聖霊を欺いて**、土地の代金をごまかしたのか…あなたは人間を欺いたのではなく、**神を欺いたのだ。**」
 - その場で息絶えたアナニア

妻サフィラも同じ罪を犯す

- 3時間後にやってきた妻サフィラ
 - 「この出来事を知らずに入って来た」
- 確認する(問い質す)ペトロ
 - 「あなたたちは、あの土地をこれこれの値段で売ったのか。言いなさい。」
- サフィラも嘘をつく
 - 「彼女は、『はい、その値段です』と言った。」
- 「主の霊を試した」
 - 「二人で示し合わせて、**主の霊を試す**とは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、…今度はあなたを担ぎ出すだろう。」
 - 彼女はたちまちペトロの足もとに倒れ、息が絶えた。

聖霊を欺く罪

- 二人はなぜ死ななければならなかったのか？
 - 嘘をついたことは良くないことだが…
- 彼らは聖霊を欺いた
 - 自分たちの嘘はバレないようにだろうと思った
 - 彼らは、教会に**聖霊**がおられることを軽視した
- 聖霊を欺く(冒涇する)罪は赦されない
 - 「はっきり言っておく。人の子らが犯す罪やどんな冒涇の言葉も、すべて赦される。しかし、**聖霊を冒涇する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。**」(マルコ3:28-39)

赦されない罪

- すべての罪はイエス・キリストの十字架の贖いによって赦されるのではないか？
 - 「神は、わたしたちの**一切の罪を赦し**、規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。」コロサイ2:13-14
- 聖霊を欺く行為はそもそも神に背いているので、十字架の恵みに与る資格はない
 - 聖霊(神)に背きながら従うことはできない
 - 「行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。」(ヤコブ2:17)

彼らはなぜ罪を犯したのか

- そもそもなぜ土地を売ったのか？
 - 他の仲間がそうしているのを見てせざるを得なくなったのか、それとも「いい恰好」をしたかったのか
- なぜ一部を手元に残したのか？
 - 全額寄付するのは惜しかった
 - 自分たちのためにも使いたかった
- サタンの誘惑に負けた
 - この二人の弱点は**お金**だった
 - サタンはそこを狙って誘惑した
 - “全部じゃなくていいんじゃないの？”

教会に起こった「恐れ」

- 二度繰り返される言葉
 - 「そのことを耳にした人々は皆、非常に恐れた。」
 - 「教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れた。」
- 聖霊は外(宣教)に対しても働かれるが、内(教会)に対しても働かれる
 - 聖霊の働きによって誕生し、拡大した教会
 - 一方で聖霊は、神の民としての教会が神の属性(愛・正義・聖)に背くことがないように監督される
- 内側から腐敗するならば外側が成長しても良い木にならない
 - 教会は常にサタンの誘惑(試練)にさらされている